

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成22年8月20日)

項 目		ページ
1	梨・ぶどうのロシア輸出について 【農 政 課】	1
2	平成22年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について 【農 政 課】	2
3	「鳥取暮らし農林水産就業サポート事業」及び「鳥取へI J U! アグリスター研修事業」の実施状況について 【経営支援課】 【森林・林業総室】 【水 産 課】	3 # #
4	主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	4
5	梨の生育状況、販売状況について 【生産振興課】	5
6	鳥取県オリジナル梨新品種「なつひめ」「新甘泉」のPRについて 【生産振興課】	6
7	「とっとり共生の森」協定締結について 【森林・林業総室】	7
8	ナラ枯れ被害の状況について 【森林・林業総室】	8
9	高温少雨による農作物への影響について 【農林総合研究所】	別紙
10	第11回日韓水産セミナーの開催について 【水 産 課】	9
11	新たな小型試験船の整備について 【水 産 課】 【水産試験場】	10 #
12	平成22年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールの審査結果について 【食のみやこ推進課】	11

農 林 水 産 部

梨・ぶどうのロシア輸出について

平成22年8月20日
農 政 課

J A全農とつとりは、環日本海貨客船を利用したロシアへの農産物輸出の今年度第2弾として、梨とぶどうの輸出を行います。

1 梨・ぶどう輸出の概要

- 出荷者 全国農業協同組合連合会鳥取県本部
- 出荷量 二十世紀梨 1,400玉（鳥取県産 5kg箱（14玉入り）×100箱）
ピオーネ 200房（広島県産 2kg箱（4房入り）×50箱）
- 販売先 ウラジオストク市内のスーパーマーケット

2 今回の農産物輸出の特徴

- 昨年度は、本県産二十世紀梨の単品輸出であったが、今回、J A広島果実連との連携により、広島県産ピオーネとの混載で輸出し、有利販売を試行する。

3 主な日程（予定）

- 9月 9日（木） 産地出荷（選果、箱詰め）
- 9月10日（金） 国内の植物検疫、通関手続き等（境港）
- 9月12日（日） 境港出港
- ～14日（火） ウラジオストク港入港
（ロシア側の植物検疫・通関手続き等）
- 9月18日（土） 店舗販売開始（ウラジオストク市内）

4 今後の輸出予定

- 11月には柿を中心とした農産物輸出を予定。

【参考：すいか・メロンの販売実績（販売開始日：7月19日～）】

- すいかは、美味しいと好評を得るとともに、カット販売も行ったことで、ほぼ完売。
- メロンは、安価な中国産マクワウリ等大きな瓜が定着しているため、本県産ネット系メロンは美味しいけれども、小さくて値段が高いという印象があり、販売率は60%と苦戦。
- メロンの出荷ダンボールで、一部つぶれなどの荷傷みが発生し、今後は積荷の形態、出荷箱の改良、緩衝材等を検討する必要がある。

区 分	す い か	タ カ ミ メ ロ ン
輸 出 量	80玉	250玉
販売用数量	58玉（試食サンプル等除く）	178玉（試食サンプル、荷傷み等除く）
販売数量	56玉（販売率：約97%）	106玉（販売率：約60%）
販売価格	2,000円/玉（約6,000円）	800～600円/玉（約2,400円～1,800円）

平成22年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について

平成22年8月20日
農 政 課

県民の農林水産業に対する理解を深めるため、また、地域特産物及び地場産業の振興を促進することにより「食のみやこ鳥取県」を推進するため、「食のみやこ鳥取県フェスタ」を開催します。

(※今年度のフェスタは、「鳥取県農林水産祭」の時代から数えて49回目)

なお、本年は初の中部開催であり、中部関連団体によるイベントステージや県外JAからの出展など例年になく意欲的な取り組みを行います。

1 展示会・即売会等

(1)日 時 9月11日(土) 午前10時から午後4時
12日(日) 午前9時から午後3時

(2)内 容 県内で生産された農林水産物、地域特産物及び加工品等の展示、即売会など

2 場 所 倉吉市営ラグビー場(倉吉パークスクエア内)

3 主な催し内容【屋外で開催】

区 分	内 容
啓発展示	<p>【鳥取県優秀経営農林水産業者等紹介コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県優秀経営農林水産業者として知事表彰を受けた農林水産業者等の活躍の様子や功績等をパネルで紹介 <p>【農林水産技術等普及啓発コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の試験研究機関における試験研究成果、新品種の紹介、農林漁業関係団体による啓発パネル等の展示等
即 売 会	<p>【大地と海の恵みエリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林水産業団体による農林水産物や加工品の紹介・販売 農林水産業の普及・啓発のための体験イベント開催 <p>【鳥取の味エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県自慢の郷土料理や食材、ふるさと認証食品の展示、試食、販売 <p>【ふるさと自慢エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元グループによる名物料理、加工品等の販売 食をはじめとした市町村のPR

(その他イベント)

コーナー名等	内 容
木工教室	親子で楽しむ木工教室の開催
ペット相談コーナー	鳥取県獣医師会によるペット相談
(NHK共催) 「食育ワークショップ」	食育ワークショップ(オリジナルマイ箸づくり/箸使い教室)ほか
体験ツアー	梨園ウォーキング/農業体験ツアー
県内・県外のB級グルメ等	(県内) 牛骨ラーメン、まぐろバーガー他 (県外) 富士宮やきそば、津山ホルモンうどん 県外JAからの出展
エコイベント	電気自動車「i-MiEV」の試乗体験コーナー

4 主 催

食のみやこ鳥取県フェスタ実行委員会(会長:坂根 國之JA鳥取県中央会会長)

構成機関:鳥取県、県市長会、県町村会、JA鳥取県中央会、JA鳥取信連

JA全農とっとり、JA共済連鳥取、NOSAI鳥取、県森連、県漁協など20団体

「鳥取暮らし農林水産就業サポート事業」及び「鳥取へIJU! アグリスタート研修事業」の実施状況について

平成22年8月20日
 経営支援課
 森林・林業総室
 水産課

1 鳥取暮らし農林水産就業サポート事業

(1) 事業の活用状況

本事業を活用し、農林漁業及び食品加工産業において今年度新たに181名(7月31日現在)の雇用が創出され、現場での実践的研修に取り組んでいる。

	事業名	助成対象者	雇用創出目標	採択数
農 業	鳥取県版「農」の雇用緊急支援事業	新規就業者早期育成事業 農業法人、農業参入企業、農業者等	100名	58名 (うち国庫41名)
		就農研修支援事業 農地保有合理化法人等	40名	23名
		県産農林水産物加工業者雇用支援事業 食品加工業者	20名	12名
計			160名	93名
林 業	鳥取県版緑の雇用対策緊急支援事業	林業事業体	50名	56名 (うち国庫43名)
	木材産業雇用対策緊急支援事業	製材工場等の事業体	15名	15名
計			65名	71名
水 産	漁業雇用促進緊急対策事業	漁業経営体	15名	17名
合 計			240名	181名

(2) H21採択者の定着状況(8/4現在)

新規就農者育成を目的とした就農研修支援事業を除く328名のうち、68名が研修を中止しており、現時点での定着率は79.3%。

【内 訳】

農 業	144名 / 177名 (81.4%)
林 業	50名 / 73名 (68.5%)
木材加工業	36名 / 37名 (97.3%)
漁 業	12名 / 20名 (60.0%)
食品加工業	18名 / 21名 (85.7%)
計	260名 / 328名 (79.3%)

【主な退職理由】

- 想像以上に業務が厳しかった
- 家庭の事情
- 他業種への転向、独立を希望
- 給料が安い
- 配偶者の働き場所がない

2 鳥取へIJU!アグリスタート研修事業

(1) 事業の概要

(財)鳥取県農業農村担い手育成機構(以下「機構」)が、県内での就農又は農業法人等への就職を希望するIJUターン者等を研修生として雇用し、農業法人等を受入先とした実践研修を実施することにより、新規就農者及び担い手の確保育成を図る。

(2) 研修生の状況と今後の予定

○第1期研修生

本格研修実施中12名のうち、10名が研修終了後(9月)に就農又は法人就職予定。

○第2期及び第3期研修生

	第2期研修生	第3期研修生
研修期間	平成22年4月～平成23年3月	平成22年9月～平成23年8月
人数	15名(県外者13名、県内者2名)	11名(県外者7名、県内者4名)
現在の状況	15名全員が6月からの本格研修に移行し、機構の研修支援員や受入先の研修指導員の指導を受けながら、順調に実践研修中。	関西圏を中心に31名(県外者22名、県内者9名)の応募があり、書類・面接審査を経て7月中旬に13名の研修生を決定。(2名辞退)
今後の予定	9～10月 就農方向の検討・決定 3月末 研修終了 4月 自立就農、法人就職	8月 準備研修 受入農家・住居の決定 9月 トライアル研修(2カ月)開始 11月 本格研修(10カ月)へ移行

※第3期研修生の年齢別人数

20代	30代	40代	50代	60代	計
2	5	1	1	2	11名

○第4期研修生

研修ニーズの高い野菜栽培の作業時期に合わせ、2月からの研修開始を検討中。

主要農産物の生産販売状況について

平成22年8月20日
生産振興課

1. すいか

- (1) 栽培面積：308ha（前年317ha、前年対比97%）
- (2) 生育状況：3～4月の低温と日照不足の影響で、生育は1週間程度遅れるとともに、着果不良となった。
- (3) 初出荷日：倉吉は6月9日（前年6月3日）
北栄は6月10日（前年6月2日）
- (4) 販売状況：春先の低温の影響で出荷量が減少したが、他産地の出荷数量も少なかったこと、及び食味が極めて良好だったことから、過去4番目の高単価で販売された（平成7年197円/kg、平成3・6年187円/kg）。

区 分	初出荷日から8月10日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
22年度	14,299	184	2,636,000
21年度	15,557	161	2,498,000
前年対比(%)	92	114	105

(全農とっとり すいか販売実績速報)

2. 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ68ha（前年66ha、前年対比103%）
夏ねぎ、秋冬ねぎの面積は323ha（前年315ha、前年比102%）
- (2) 生育状況：3～4月の低温、日照不足の影響で生育が遅れていたが、その後の好天により回復し、ほぼ順調な生育になっている。
- (3) 初出荷日：春ねぎは3月1日（前年3月2日）
夏ねぎは6月6日（前年5月31日）
- (4) 販売状況：4～6月までの数量は前年比10～15%少なく、単価は50～65%高かった。7月は昨年より数量は多く、単価、金額も高く、良好な販売状況となっている。

区 分	4月1日から7月31日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
22年度	2,546	415	1,055,792
21年度	2,450	353	863,770
前年対比(%)	104	118	122

(全農とっとり販売速報)

梨の生育状況、販売状況について

平成22年8月20日
生産振興課

今年は春先の低温により梨の実止まり不良が問題となり、小玉果や変形果が多くなることも心配されているが、全農とつとりが8月2日に実施した二十世紀の破袋調査によると、小玉ながらも秀率が高く品質は良いことが分かってきた。

8月23日(月)には、露地二十世紀で出荷前の査定会が計画されている。

既にハウス二十世紀、幸水の販売が始まっている。熟期の遅れと小玉から数量は少ないが、高単価で販売されている。

1 8月2日の二十世紀梨破袋調査による肥大予想と等級割合(県下1.1万果を調査)

(1) 肥大予想

階級としては2L、Lサイズが中心と予想。小玉年であった平成18年度よりも2L以上の大玉果の割合が高いが、S以下の比率も増えそうである。

	4L以上	3L	2L	L	M以下	S以下	備考
H22予想	4%	12%	23%	25%	19%	17%	
H21実績	15%	31%	30%	18%	6%	—	大玉年
H18実績	2%	8%	21%	41%	26%	2%	小玉年

(2) 等級割合

変形果が多くなることを懸念していたが、秀率が高く品質は良さそうである。ただし、県東部では霜害果も多く見られた。

	赤秀・青秀	優・〇	外
H22調査	79.2%	18.0%	2.8%
H21実績	64%	36%	—

2 8月10日の二十世紀梨の事前査定の結果

収穫のおよそ20日前の二十世紀梨を調査した結果、前年や平年と比べると小玉であるが、糖度が高く美味しい仕上がりが期待できる梨になっていた。

地域	1果重	糖度
東伯東部(湯梨浜町)	289g(前年比82%,平年比88%)	10.0度(前年9.6度)
東伯西部(琴浦町)	248g(前年比86%,平年比99%)	10.3度(前年9.3度)
5選果場持寄り	316g(前年346g)	10.3度(前年9.3度)

※5選果場は、東郷、倉吉、東伯、赤碕、大山

3 梨の販売状況

品種	数量	前年比	単価	前年比	備考
ハウス二十世紀	182.3t	79%	610円/kg	113%	8月5日初販
幸水	11.7t	28%	365円/kg	121%	8月7日初販

※8月9日販売までの累計

鳥取県オリジナル梨新品種「なつひめ」「新甘泉」のPRについて

平成22年8月20日
生産振興課

鳥取県農林総合研究所園芸試験場が育成した梨新品種「なつひめ」「^{しんかんせん}新甘泉」は、本県オリジナル梨品種として導入を進めるとともに、生産者代表、農業団体、県等によるブランド化プロジェクト会議で生産・販売方法を検討し、ブランド化に取り組んでいる。

年々出荷量が増え、今年は63tと本格的な出荷を迎えることから、様々なPRを展開する。

1 「なつひめ」「新甘泉」について

「なつひめ」：「二十世紀」と同じ青梨であるが酸味が控えめで糖度が上回る。爽やかで上品な味わい（H19.3.23品種登録）。

「新甘泉」：糖度が約14度と圧倒的な甘さが特長の赤梨（H20.2.22品種登録）。

両品種とも8月下旬が収穫時期で、「二十世紀」の前に出荷し、旬のリレーで鳥取県産の梨出荷を進めようとしている。

2 栽培状況

「なつひめ」：苗木供給実績 7,898本（面積換算 19.7ha）

「新甘泉」：苗木供給実績 9,068本（面積換算 22.7ha）

※苗木植栽以外に高接ぎによる品種更新も行われており、新品種全体の栽培予想面積は約70ha。

3 出荷計画

	H20実績	H21実績	H22計画
なつひめ	2.5 t	11.5 t	21 t
新甘泉	10.3 t	22.9 t	42 t

4 PR展開

(1) イベント等でのPR

- ・集客力の高い東京お台場のフジテレビ近くで、9月5日に「とっとり梨新品種PRイベント in お台場」を開催（生産振興課）
- ・8月29日にJR名古屋駅高島屋での物産展「ゲゲゲのふるさと鳥取県フェア」で「新甘泉」をプレゼント（市場開拓課）

(2) 雑誌・新聞等でのPR

- ・雑誌「dancyu」8月6日発売のタイアップ企画「旬探訪」で紹介（広報課）
※ dancyu：食をテーマにした約15万部を発行するプレジデント社の雑誌
- ・とっとり県政だより8月号で次世代の梨として紹介（広報課）
- ・毎日新聞、産経新聞の関西版で8月末に全5段広告（広報課）
- ・野菜ソムリエ協会フリーペーパー8月31日発行に記事掲載（食のみやこ推進課）
- ・雑誌、新聞等でのプレゼント企画他（東京本部他）

(3) チラシ・ポスター等によるPR

- ・ゲゲゲの鬼太郎とタイアップしたポスター、チラシの作成（生産振興課）
- ・JR新大阪駅新幹線乗り場でポスター掲示（生産振興課）

(4) 試食宣伝会によるPR

- ・東京の果実専門店「紀ノ国屋」、大阪の京阪ザ・ストア、百貨店での試食宣伝会（全農とっとり）

「とっとり共生の森」協定締結について

平成22年8月20日
森林・林業総室

サントリーホールディングス株式会社（本社：大阪市）は、県、江府町と「とっとり共生の森」森林保全・管理協定を締結し、江府町のサントリー「天然水の森 奥大山」において森林保全活動を実施されているところであるが、このたび、同町内の森林において新たに区域を拡大し森林保全活動を展開されることとなり、次のとおり森林保全・管理協定の調印を行った。

- 1 日時 8月9日（月）午後1時15分～2時00分
- 2 場所 知事公邸 第1応接室（鳥取市東町一丁目133番地）
- 3 調印者 サントリーホールディングス株式会社
代表取締役副社長 鳥井信吾
江府町長 竹内敏朗
鳥取県知事 平井伸治

4 協定目的

- サントリーホールディングス株式会社は育林活動により森林環境の保全に貢献すること
- サントリーホールディングス株式会社は地域との交流により地域の発展に寄与すること
- 県と町はサントリーホールディングス株式会社の活動に対し協力すること

5 協定内容（今回拡大する場所）

- 協定期間 平成22年8月9日から平成52年8月8日
- 森林の所在 日野郡江府町大字御机^{みづくえ}地内
- 森林の面積 37.75ha
- 土地所有者 鳥取県、町行造林地
- 活動内容 森林整備（間伐、枝打ち、ツル切り等）、環境整備（作業道・遊歩道開設等）

【参考】

■協定締結森林の状況



対象森林の全景



荒廃が進む登山道(県有林)



間伐等の手入れが必要なスギ人工林（町行造林地）

■サントリーホールディングス株式会社の取り組み

- ・サントリーの工場所在地周辺を中心に、サントリー「天然水の森」を展開。全国各地の12箇所において森林保全活動を実施中。
- ・サントリー「天然水の森 奥大山」88ha（H19.6月「とっとり共生の森」協定締結済）においても、「森と水の学校」や「ブナの実プロジェクト」を展開している他、間伐材を搬出し有効利用するなど多様な取り組みを行っている。

ナラ枯れ被害の状況について

平成22年8月20日
森林・林業総室

1 ナラ枯れ被害の状況

ナラ枯れ被害は、カシノナガキクイムシ（体長5mm程度）が運ぶナラ菌によって、ナラ・カシなどの樹木が通水障害を起こし枯損するもの。

- (1) 今年度(7月末時点)の被害本数は20,765本で、前年度の186%と被害量が激増。
- (2) 昨年度、飛び火的に被害が確認された湯梨浜町と大山町でも被害がみられ、県内8市町で被害が発生中。
- (3) 年度別被害の状況

市町村名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	対前年度比
鳥取市	(5,407本) 812m ³	(5,126本) 1,158m ³	(7,516本) 1,512m ³	(15,357本) 3,183m ³	(204%) 210%
岩美町	(81本) 12m ³	(204本) 30m ³	(313本) 47m ³	(3,349本) 502m ³	(1070%) 1069%
八頭町	(350本) 84m ³	(190本) 62m ³	(310本) 83m ³	(752本) 226m ³	(243%) 272%
若桜町	(1,200本) 288m ³	(1,550本) 458m ³	(1,255本) 364m ³	(15本) 5m ³	(1%) 1%
智頭町	(35本) 8m ³	(160本) 52m ³	(620本) 187m ³	(271本) 81m ³	(44%) 43%
三朝町	(14本) 9m ³	(134本) 87m ³	(1,043本) 678m ³	(826本) 537m ³	(79%) 79%
湯梨浜町	— —	— —	(10本) 6m ³	(118本) 77m ³	(1180%) 1283%
大山町	— —	— —	(73本) 75m ³	(77本) 74m ³	(105%) 99%
計	(7,087本) 1,213m ³	(7,364本) 1,847m ³	(11,140本) 2,952m ³	(20,765本) 4,685m ³	(186%) 159%

2 これまでの対応

- 7月末までに発生したナラ枯れの被害木調査を実施。
- これに基づいて、県が設置している「鳥取県ナラ枯れ被害対策協議会(8/11)」において、国有林・県・関係市町村が連携して、被害木の駆除に取り組むことを確認。
- 本県が提案県となり、近畿ブロック知事会の関係府県と「ナラ枯れ被害対策に関する情報交換会(5/19:大阪市)」を開催し、9府県20名により対応策等について意見交換を実施。

3 今後の対応

- 西進拡大を食い止めるため、被害先端区域である鳥取市(旧青谷町)、湯梨浜町、三朝町、大山町において、県がヘリコプターとGPSを活用して被害木の所在箇所を座標特定する被害木調査を実施し、調査結果に基づき、徹底駆除を行う市町村を支援。(H22当初予算:7,810千円)
- 鳥取県では被害が西進、島根県では東進しており、また岡山県や広島県にも被害が南下し始めていることから、中国5県で情報交換会の開催を予定。

第11回日韓水産セミナーの開催について

平成22年8月20日
水産課

1 事業の概要

日本海水産資源に対する日韓両国の共通認識を醸成し、水産分野における交流と協力を推進する。(平成9年より交互に開催、平成22年度は鳥取県で開催)

2 訪問団(10名)

環東海出張所 金 洪柱(キム・ホンジュ) 所長、李 東喆(イ・ドン Chol) 漁業支援課長、
金 光燮(キム・グァンソプ) 漁業協力担当、辛 悰黙(シン・ジョンムク) 主務官
江陵原州大学 金 亨根(キム・ヒョンゴン) 教授、江原道立大学 朴 郁淵(パク・ウギョン) 教授
水産資源研究所 崔 二吉(チェ・イギル) 所長、東海水産事務所 鄭 善紅(チョン・ソンホン) 主務官
漁業者(莊湖漁村契) 金 昌勳(キム・チャンフン)、江陵市観光課(通訳) 李 姫敬(イ・ヒギョク)

3 受入日程

8月24日(火)	米子-ソウル便で来県 鳥取市へ移動、歓迎レセプション開催(ホテルモナーク)
8月25日(水)	【午前】山陰海岸ジオパーク視察、賀露港周辺視察 【午後】知事表敬訪問、水産試験場沿岸漁業部視察 琴浦町・赤碕町漁協の視察及び交流
8月26日(木)	日韓水産セミナー(10:00~17:00 米子コンベンションセンター)
8月27日(金)	境港水産・観光施設等の視察 DBSクルーズフェリーで離県

4 セミナーの内容

<p>【テーマ】ハタハタ資源の活用(生態・資源管理・ブランド化など) [江原道]ハタハタ資源回復を通じた地域活性化(東海水産事務所) [鳥取県]鳥取県におけるハタハタの資源生態調査の概要(水産試験場)</p>
<p>【テーマ】各道県の個別議題 [江原道]江原沿岸の海洋生物資源回復プログラム(江陵原州大学) [鳥取県]洋上風力発電による水産振興(鳥取大学)</p>
<p>【テーマ】漁業者の暮らしの現場(事例発表) [江原道]釣り漁船業運営により新たな所得創出(三陟莊湖漁村契) [鳥取県]漁業者と流通業者が連携し水産物を産地直送(株式会社 大新)</p>
<p>【テーマ】漁業を通じた地域の活性化 [江原道]注文津イカ名品ブランド化事業(江原道立大学) [鳥取県]水産業を通じた地域の活性化(赤碕町漁協)</p>

※研究報告、事例発表及び意見交換を行う。

江原道との水産分野交流の経緯

- 平成9年2月に鳥取市で「第1回日韓水産セミナー」を開催して以来、毎年鳥取県と江原道の水産関係者の交流を継続(平成17・18年度は一時中断)
- 関係大学の協力のもと「水産技術者の交流を含めた技術交流・協力に関する覚書」を調印(平成12年9月)
- 科学技術、学術といった学官の交流から、漁業者を含めた産学官の交流に発展させるため、第8回日韓水産セミナーで改正覚書を調印(平成19年11月)

新たな小型試験船の整備について

平成22年8月20日

水産課・水産試験場

平成19年度に試験船第二鳥取丸(10トン)を廃止して以来、漁船の備船により海上調査を行ってきた水産試験場沿岸漁業部(旧栽培漁業センター)に、平成22年度予算により小型試験船を整備し、9月上旬から試験船による海上調査を再開することとなったので報告します。

1 経緯

- ・経費節減を目的に老朽化した試験船第二鳥取丸の廃止・船員(3名)の引き上げを決定(平成18年度サマーレビュー)
- ・漁船の備船により海上調査を開始(平成19年9月)
- ・試験船第二鳥取丸の売却・船員の引き上げ完了(平成19年12月)
- ・平成19年以降の備船による調査で、海上作業の危険性、調査効率の低下等の課題が浮上
- ・上記課題を解消するため、小型試験船(5トン程度)の整備費を予算化(平成22年度)
- ・小型試験船の整備に着手(平成22年5月)
- ・進水(大分県国東市「ヤンマー造船」平成22年7月29日)

2 小型試験船の概要

船名：おしどり(愛称ととリン)

規模：6.1トン

速力：3.1ノット

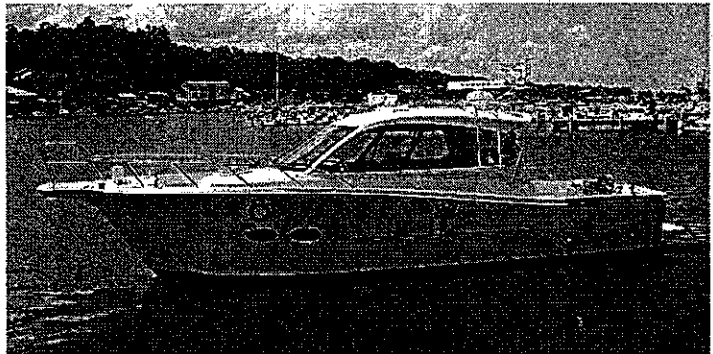
整備費：28,875千円

航行範囲：鳥取県距岸20マイル以内

乗組員：船長(委託)・海上支援職員・研究員

業務内容：沿岸海洋観測・放流種苗の運搬・潜水調査など

注)その他の業務(小型底曳網調査・中海漁場環境調査等)は、これまでどおり備船で対応。



3 今後の予定

- ・艀装整備のため鳥取港に回航(8月8日)
- ・委託契約による操縦者の確保(8月下旬)
- ・整備完了・根拠港泊漁港にて引き渡し(9月1~3日)
- ・調査業務開始(9月上旬)
- ・全国豊かな海づくり大会プレイベント(賀露)の海上パレードにて県民に披露(10月9日)

平成22年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールの審査結果について

平成22年8月20日
食のみやこ推進課

1 特産品コンクールの概要

【目的】

鳥取県産の農林水産物を主原料とした加工食品、又は県産の農林水産物の特徴を活かした加工食品で、3年以内に開発・改良された商品の中から優れた商品を表彰・PRすることで、加工技術の向上と新商品の販路開拓や販売力の強化を図る。

【募集条件】

- ① 県産農林水産物を主原料とし、又はその特徴を活かした加工食品
- ② 商品化又は改良されてから3年以内の商品（H19年5月～H22年4月）
- ③ 現在販売中のもので安定的な市場出荷が可能なもの
- ④ 食品衛生法、計量法、JAS法等の関係法令に違反しないもの
- ⑤ 出品の際、変質又は破損しないもの

【応募状況】

- (1) 募集期間 4月2日～5月31日
- (2) 応募総数 53商品（32社）

2 審査

(1) 予備審査

- 申請された商品のラベル等により、食品衛生法、JAS法、景品表示法等の法令適合性の審査
- 予備審査をパスした商品 37商品（27社）

(予備審査をパスした商品の概要)

区分	菓子・珍味類	惣菜・味噌	水産加工品	レトルトカレー・シチュー	酒類	漬物	ご飯・うどん	その他
商品数	37	8	8	5	5	3	2	3

(2) 本審査 (8月3日)

○ 審査委員会

- ・ 鳥取短期大学松島文子教授ほか8名
(学識経験者、食品関係団体、一般消費者の委員)
- ・ 審査の基準：①品質、②パッケージ、③市場性

3 審査結果

区分	商品名	企業名
最優秀賞	紅ずわいがにかにおこわ	有限会社前田水産
優秀賞	エスニックビーフシチュー	豊田アストリア有限会社
	美人らっきょうシリーズ [甘酢、黒酢、ピリ辛、はちみつレモン、塩] ノンフライ製法南蛮漬けシリーズ [あじ南蛮漬け、いか南蛮漬け、さば南蛮漬け]	泊綜合食品株式会社 友田セーリング株式会社
優良賞	千代むすび純米大吟醸 源流あられ酒 海に降る雪 焙りほたるいか	千代むすび酒造株式会社 有限会社小倉水産食品

4 今後の展開

- (1) 食のみやこ鳥取県フェスタ、県HP等で、受賞商品のPR
- (2) 受賞商品であることを証する統一マークによる販売促進支援
- (3) 特産品コンクールの継続実施による県内商品のレベル向上



5 昨年度の受賞者の意見

- 受賞したことで商品の売上げが増加し、新規取引先が増えた。
- 社内の関連商品の売上げ増加にも効果があった。
- 特産品コンクールがあることを意識して新商品開発を考えるようになった。

【参考】

県内加工品の認証制度（商品数：平成22年7月現在）

- 鳥取県ふるさと認証食品（県：平成2年～） …… 498商品
- とっとり自慢（商工会連合会：平成16年～） …… 89商品